

にっこり

登録番号：第5138号

登録年月日：平成8年8月22日

登録者：栃木県（栃木県宇都宮市埴田1-1-20）

育成者：金子友昭 高橋建夫

来歴：「新高」と「豊水」の交雑実生

育成地：栃木県宇都宮市（栃木県農業試験場）

特性

■栽培特性

樹勢はやや強く、枝の発生およびえき花芽の着生はやや少ない。短果枝の維持は容易であるが、「新高」や「豊水」のようなショウガ芽にはなりにくい。

開花期は「豊水」より早く、「新高」とほぼ同時期である。「筑水」、「幸水」、「豊水」「長十郎」、「新興」、「新高」等と交雑和合性である。花粉は少ない方で、自家稔性はない。

■果実特性

果実は800～900gの大果で、果形は円形である。果皮は赤褐色で、果点はやや大きい。有てい果が混在する。果芯の大きさは中程度、果肉の色はやや雪白色であり、果肉硬度は4.3ポンドと軟らかく、多汁である。糖度は12%程度で、果汁のpHは5.1程度と酸味は弱く、食味が良い。

収穫期は育成地において10月下旬で、「愛宕」とほぼ同時期である。貯蔵性は常温で75日と長い。しかし、秋から初冬にかけて暖かい年には日持ちが短くなる。また、「新雪」や「愛宕」より貯蔵性は短い。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒斑病には抵抗性である。えそ斑点病には病徴発現性なので、病徴非発現性の品種に高接ぎする場合にはえそ斑点病の検定が必要である。黒星病、輪紋病等に対しては赤なしの慣行防除で問題ない。

本品種は8月中旬に裂果が発生することがあるので、最終摘果を裂果終了後の9月上旬に行うなどの対策が必要である。

本品種の適熟果色が地色用カラーチャートで4～4.5である。早採りすると食味が劣るので、適期収穫が重要である。また、「豊水」にみつ症が多発した年には、本品種にもみつ症やす入り症が発生することがあるので、そのような年には「豊水」と同様、過熟にならないよう収穫期に注意する必要がある。

■地域適応性

本品種は栃木県内全域で栽培されており、いずれも良好な特性を発揮していることから、なし栽培地帯に広く適応するものと考えられる。平成11年の栃木県における結果樹面積は約30haである。

（金子友昭）